

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

新年を迎えて



愛知県がんセンター総長

高橋 隆

明けましておめでとうございます。

近年、がんゲノム解析にもとづく精密医療や、免疫チェックポイント阻害剤・分子標的薬などのがん研究の進歩の果実が、がん医療を大きく変えつつあります。そのような時代背景のもとで、愛知県がんセンターは今、変革を迫られています。昨年度には研究所を全面再編し、今年度から総合がんセンター機能強化推進事業を立ち上げました。これは、今ある最先端の医療を実践するのみならず、これまで診断できなかった、治せなかった、或いは、予防できなかった方々に、次世代のがん医療・予防を開発して届けるという、病院と研究所を併置する総合がんセンターが担うべき役割を強く意識したものです。そのために、従来から高い評価を得てきた臨床と基礎研究という二つのピークの谷間を埋めるべく、病院と研究所が一体となって4つの重点プロジェクトを推進中です。また、今年は、私たちの取組みの“見える化”にも、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

本年も皆様の温かいご理解ご支援のほど、心よりお願い申し上げます。



愛知県がんセンター病院長

丹羽 康正

新年明けましておめでとうございます。

病院長に就任して5年目となりました。日進月歩のがん医療に対応するために2017年個別化医療センターに始まり、サルコマーセンター、リスク評価センター、さらには2019年3月にがんゲノム医療センターを開設し、9月には厚生労働省より「がんゲノム医療拠点病院」と指定されました。また、さらに最新の医療を提供できる基盤を得るために、最高水準の医療安全を目指した病院機能評価機構の審査を2020年2月に受ける予定です。地域医療構想あるいは働き方改革と国が求める医療環境は厳しいものがありますが、設立のミッションである「患者さんの立場にたって、最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供する」ために病院・研究所全職員が「ONE TEAM」となり全力を出して励んでいきたいと思っております。

がんといえば「愛知がん」と言われるために、受診しやすい病院、診療所と連携している病院、と実感していただけるように努めてまいります。

引き続き変わらないご支援を本年もよろしく願いいたします。

患者サービス委員会の活動2019

患者サービス委員会は、患者サービスの向上及び職員の意識改革を目的として設置されており、①患者サービスの改善、②職員の意識改革（接遇向上）、③患者満足度調査に関すること、④病院内のアメニティに関することの4つを中心に活動しております。メンバーはさまざまな所属から選出され、多職種で構成されています。今年度は、さらなる職員の接遇向上を目標にあげ、接遇セルフチェックや委員による接遇ラウンドなどを行いました。セルフチェックをすることで、日常の自分の行動を振り返る機会となったと思います。また、委員会の中心的な活動として、年1回の患者満足度調査や年に4～5回開催されるボランティアコンサートの運営などがあります。

以下に、今年度の患者満足度調査の結果と行われたボランティアコンサートの様子をお伝えします。

【患者満足度調査の結果（10月7・8日実施）】

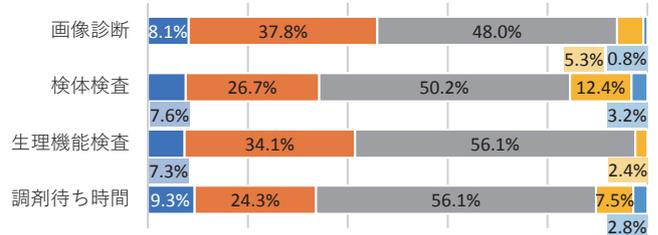
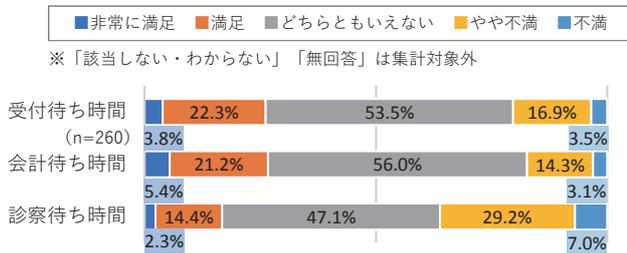
- 1. 調査件数** 外来部門 配布枚数：300枚 有効回答数：272件（回答率：90.7%）
 入院部門 配布枚数：300枚 有効回答数：207件（回答率：69.0%）

2. 調査結果

1) 総合的に当院を100点満点で評価すると何点ぐらいになりますか

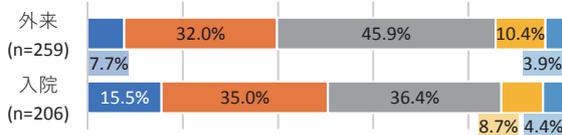
- ①外来部門 平均84.0点 ②入院部門 平均85.6点

2) 外来待ち時間満足度

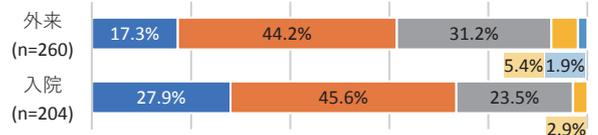


3) 満足度（一部抜粋）

【設備・施設】 トイレの清潔さ、使いやすさ



【医師】 病状や検査結果の説明のわかりやすさ



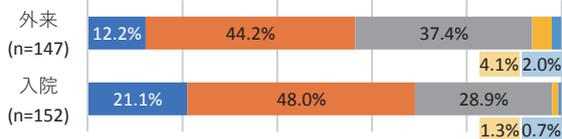
【医師】 質問や相談のしやすさ



【看護師】 痛みやつらさ、不安等を和らげる配慮



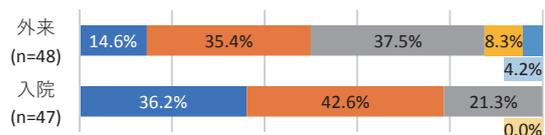
【薬剤師】 薬の説明のわかりやすさ



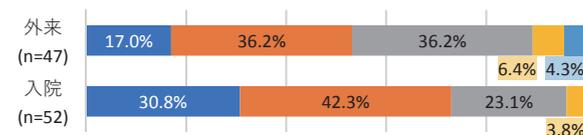
【放射線技師】 検査に関する説明



【相談支援センター】相談したい内容を相談できたか



【相談支援センター】相談したい内容についての説明



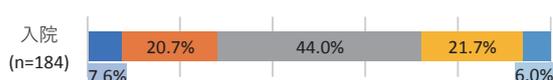
【化療センター】治療しながら生活することへの看護師の説明



【入浴】入浴・シャワーの設備



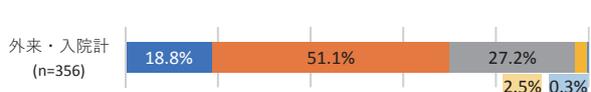
【食事】食事のメニュー



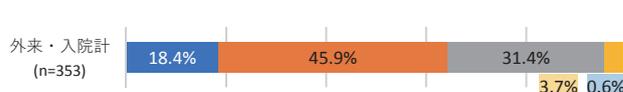
【食事】食事の味



【退院】退院時の看護師の説明



【退院】退院後の生活についての説明



4) すべての職員は検査や処置などの前に、フルネームでお名前を名乗っていただくようにしていましたか



※全ての調査項目につきましては、ホームページで公開します。 <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/>

3. 総 評

患者満足度調査にご協力いただきありがとうございました。この調査は年に1回、多くの患者さんのご意見を頂く貴重な機会であり、当院が患者さんの立場に立った医療が提供できているのか振り返る機会となっております。昨年度の結果から、冒頭で述べておりましたように、接遇を向上しようとセルフチェックや接遇ラウンドなども行っておりますが、この結果を見ましてもまだ多くの課題があると認識いたしました。また、安全な医療を提供するうえでフルネームの確認をすることに取り組んでおりますが、100%に至っておらず引き続き職員へ徹底していきたく思います。最後になりますが、当院には患者さんからのご意見・ご要望をいつでもうかがえるよう、院内に15か所で意見箱も設置しております。患者さんからご意見を頂き、改善を図っていきたく思っておりますので、ご活用ください。

♪ ボランティアコンサート ♪



年数回のボランティアコンサートを開催し、患者さんにひと時の安らぎと楽しみをお届けしています。9月には、ジャズ・歌謡曲を演奏するビッグバンド「木曜アンサンブル」が、「舟唄」「好きになった人」などの昭和歌謡を患者さんとともに楽しみました。一緒に口ずさめる懐かしい曲が好評でした。

11月には慰問活動を続ける「エンカレッジ」によるライブを開催しました。シンガーソングライター清貴さんの伸びやかな歌声を楽しみ、手話シンガーソングライター賀央里さんの「おにぎり」に心があたたかくなりました。



(令和元年度患者サービス委員会委員長 戸崎加奈江)

患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな1頁

とろく医探訪 No.14

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

アガペクリニック 院長：伊藤 志門 先生



がんセンターの先生ならびにスタッフの皆様、いつも病診連携でお世話になっております。登録医の皆様、はじめまして、日進市で開業しておりますアガペクリニック院長の伊藤志門です。

わたしは2002年～2004年に胸部外科レジデントとして、2008年～2012年まで呼吸器外科医長としてがんセンターでお世話になりました。肺がんの手術を中心に緩和ケアや化学療法、クリニカルパスを含めたチーム医療を勉強させていただき、世界的にも高名な先生方や専門性の高いスタッフの皆さんと一緒にがん診療を経験させていただいたことは、今も大変貴重な経験として日常診療に役立っております。

2015年から父が創業した17床の有床診療所を継承しております。地域のホームドクターとして外来、在宅と入院診療に従事しております。日頃から、当院にかかりつけの患者さんをご診察していただいたり、日進近郊の在宅緩和ケアの必要な患者さんをご紹介いただいたりしております。おかげさまでこの4年間で約250名の看取りを経験させていただきました。

当院におけるがん治療として、有床診療所である利点を生かして、難治性腹水のCART(腹水濾過濃縮再静注法)を行ったり、CVポート留置術をおこなったりしております。在宅緩和ケアや外来化学療法で、どうしても疲弊しがちな患者さん家族の為にレスパイト入院も提供しております。入院中の患者さんには週に1回のチャレン(病院牧師)による「こころの回診」も行っています。外来においては、がんセンター在籍中に関わらせていただいた地域連携パスを利用した共同診療にも対応しています。

自分ががんセンターに在籍していた時に、地域の患者さんを共に診ていただける先生は大変ありがたかったことを思いだしつつ、自分も微力ながらがんセンター診療の一部でも協力できればと思っておりますので、今後ともよろしく願います。

【医療機関情報】

アガペクリニック



診療科目／内科、外科、肛門外科、胃腸内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科、泌尿器科、リハビリテーション科

電話／0561-74-3000

所在地／〒470-0115 愛知県日進市折戸町孫三ヶ入61番地

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後	17:00-19:00	○	/	○	/	○	/	/
受付開始は7:00/16:00 受付終了は11:50/18:50								

編集後記：第14回は日進市、「アガペクリニック」です。多くの診療科目と、外来・入院・訪問診療も対応可能な地域のための万能診療所です。アガペは「愛」という意味、待合ロビーには聖書の言葉が掲げられており、目指すべきクリニックの姿と伊藤先生のチャレンジが伝わってきます。<Y.SANO>

がん登録資料を用いた大腸がんの記述疫学研究

研究所 がん情報・対策研究分野



がん情報・対策研究分野長

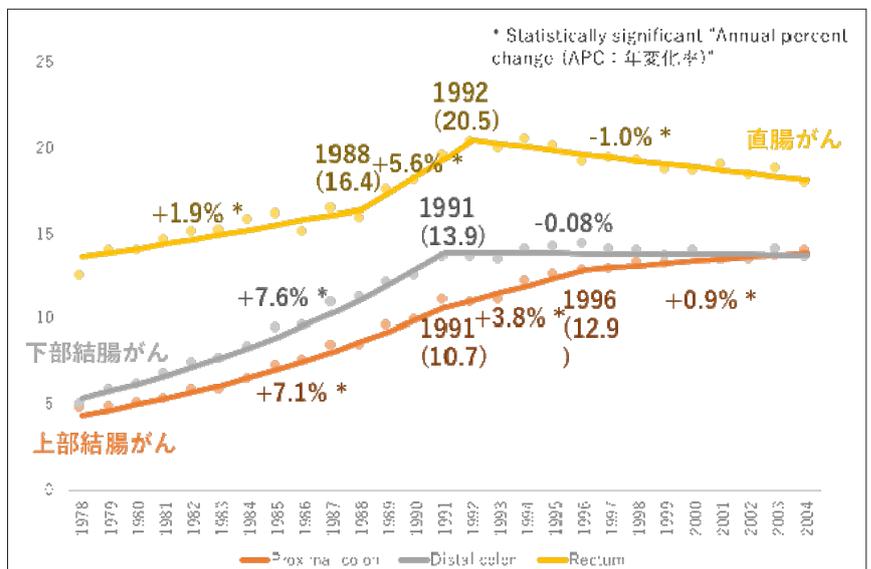
伊藤 秀美

1992年に開始された大腸がん検診の効果で、大腸がん罹患増加が抑えられた可能性もあります。

部位別にみると、それぞれ罹患動向が異なっていました(図)。直腸がん罹患は減少し、下行結腸がん罹患は増減なく推移していましたが、上行結腸がんはまだ増加が続いていました。これは、発生部位によるリスク・予防要因の寄与の相違、がん検診によるがん発見効果や予防効果の違いなどにその要因があることが考えられました。

がん情報・対策分野では、愛知県内のがん患者さんの情報を収集する愛知県がん登録に深く関わり、県内のがんの罹患率や死亡率の動向や、生存率の地域格差の分析に取り組んでいます。

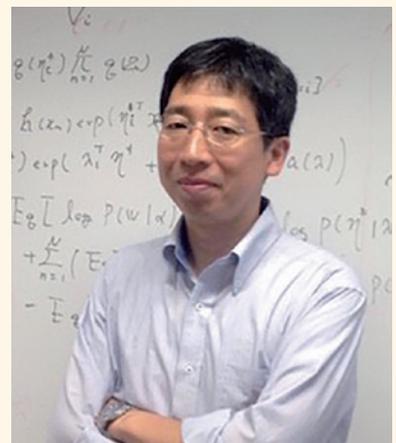
今回は、大腸がんについての研究成果をご紹介します。私達のグループは、愛知県をはじめとする10都道府県がん登録に登録されている1978年から2004年に10都道府県で大腸がんと診断された303,802例を対象に、解剖学的部位別(右側結腸、左側結腸、直腸)にがん罹患動向を評価しました。年齢調整罹患率は、大腸がん全体で見ると、1993年前までは年変化率4.9%で増加し続け、以後は増減なく推移していました。これは、大腸がんのリスク要因である加工肉や赤肉摂取や飲酒量が戦後の食の欧米化により増加し1980-90年代には安定化したことが関連していると考えられました。また、



大腸がんの部位別年齢調整罹患率の変化：%表示は年変化率(*のついている年変化率は統計学的有意で、+は増加、-は減少を示す、*がない場合は増減なしと評価)。括弧内の数字は、人口10万人あたりの年齢調整罹患率。

研究所 システム解析学分野 スタッフの紹介

当分野は2019年2月にできた新しい研究室です。分野のモットーは“Data Science for Medicine”です。データ科学の力でがんのシステムの理解を進め、得られた知見を医療へ還元し、一人でも多くの患者さんのお役に立てることを目指しています。医学・生命科学分野は、今後データ科学の力を身に着けた人材がよりいっそう必要とされ活躍すべき領域です。現在はまだ分野長のための研究室ですが、すでに病院・研究所との多くの共同研究を進めており、そのような人材のインキュベーターとなることを目指しています。



写真：山口 類(分野長)

希少がんに立ち向かう —軟部腫瘍の診断—

病院 遺伝子病理診断部



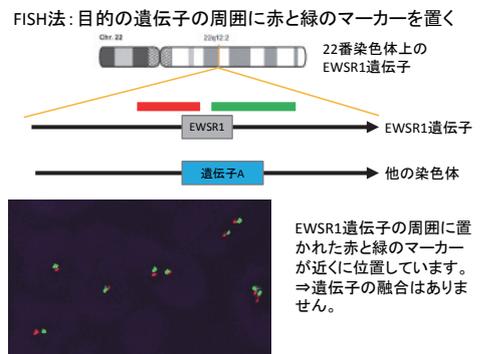
遺伝子病理診断部長
細田 和貴

当院には多くの種類の腫瘍性疾患の患者さんが治療のために来院され、その中の一つに希少がんがあります。希少がんはその頻度が低いにも関わらず種類が多いため診断が難しいのが特徴です。ここでは代表的な希少がんである軟部肉腫の病理診断について当科の取り組みを紹介いたします。

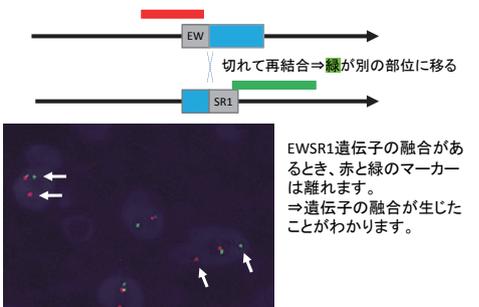
軟部腫瘍では現在研究が進みその分子異常が明らかとなった腫瘍型が数多くあります。特に二種類の遺伝子が切断し再結合してできた、融合遺伝子と呼ばれるタイプの異常が多いのが特徴です。融合遺伝子の検出法は進歩し、免疫染色法、FISH法、RT-PCR法、NGS法など複数の方法が知られており、当科ではこれらの方法の整備に取り組んでいます。FISH法は蛍光色素を用いて

遺伝子の融合を検出する方法で（右図）、既知の組み合わせの融合が分かっている遺伝子には有用な方法です。近年は次世代シーケンシング（NGS）と呼ばれる方法で多数の融合遺伝子を一度に検出する方法が開発され、当科は個別化医療センターと合同でこの技術の臨床応用に取り組んできました。

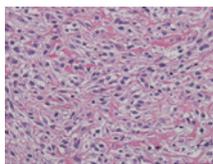
サルコマーセンターを有する当病院では、軟部腫瘍は「希少」でありませぬ。今後も新しい技術の導入に取り組みながら正確な診断ができるよう努力して参ります。



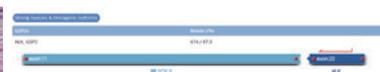
FISH法: 遺伝子の融合があるとき



診断困難な軟部肉腫からALK融合遺伝子が検出された



肉腫の顕微鏡像

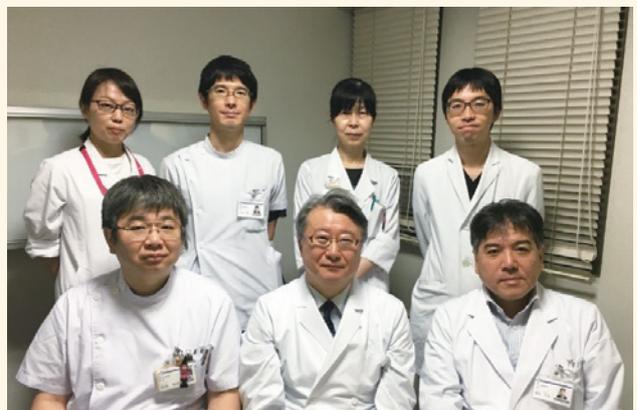


診断の難しい軟部腫瘍でしたが、NGS法でALK融合遺伝子を検出しました。ALK融合遺伝子に対する治療薬が期待できます。

血液・細胞療法部

血液・細胞療法部は、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液がんの診療、造血幹細胞移植（骨髄移植）の実施、がん以外の血液疾患の診療を担っています。現在のスタッフのうち、6名が血液専門医で、2名はがん薬物療法専門医の資格も有しています。病理部や検査部の協力のもと精緻な診断をおこない、患者さんに至適な治療を提供できるように体制整備をおこなっています。

スタッフの紹介



写真：前列左から、田地、山本（部長）、柳田
後列左から、齋藤、上田、加藤、内田

乳腺科部の紹介と最近の取り組み

病院 乳腺科部

私たち乳腺科部は、13名のスタッフで診療しています。うち女性医師が10名です。乳がんは、2014年の日本人における統計では約7万6千人が罹患し、女性のなかで最も多くを占め、30歳代から増加傾向、40歳代後半から50歳代前半でピークを迎えることが特徴のひとつです。乳腺疾患は、乳がんのほか、良性腫瘍、炎症等もあり、自覚症状や検診後の要精査を含めると多くの患者さんが外来を訪れます。当院では、年間約420-460人の乳がん患者さんが手術を受けています。乳がんの治療は日々進歩し、乳がんの個性に合わせた治療、個別化が進んでいます。治療計画を立てるにあたり、最初に病期分類とサブタイプの同定を行い、患者さん個々に治療計画を立てます。多くの場合、手術治療、薬物治療（化学療法、分子標的治療、ホルモン治療）、放射線治療を組み合わせで行います。手術において最近の傾向としては、乳腺全摘術の場合、同時に自家組織（広背筋や腹直筋）を用いる再建術を行う患者さんが増えています。薬物治療は、まさに個別化が進んでいる分野です。がん細胞の特性に合わせて、分子標的治療など最新の標準治療を行い、その上で新たに有望な治療薬（治験）の選択肢があれば、できる限り患者さんに提示しています。治験のほか、新たな標準治療を切り拓くための臨床研究も多く行っています。遺伝の素因が強い乳がんである、遺伝性乳癌卵巣癌症候群は、日本人乳がんの5-10%程度に認められます。現在、再発乳がんの患者さんのうちこの遺伝子変異（BRCA）を有する場合、新たな分子標的薬（PARP阻害剤）が保険で認められていますので、生殖細胞系列（生まれ持った遺伝子）を検査する必要が出てきている、すなわち腫瘍（がん）をみるだけでなく、患者さん自身の体質をみる必要が出てきています。そのため当院ではリスク評価センターを開設し、専任の遺伝専門医と遺伝カウンセラーが常駐し、カウンセリングを通じて相談できる環境を整えています。このように患者さんを輪の中心としたチームワークを重視し、看護師や薬剤師、他の専門分野の医師（形成外科、整形外科、皮膚科、放射線治療部、遺伝専門医、歯科口腔外科、等）と強く連携をしています。また本年7月には、岩田広治部長兼副院長を会長として、第28回日本乳癌学会学術総会を地元愛知県で行います。'We can do -making better future-'として日本及びグローバルの患者さんのために将来に向けて走り出します。皆で力を合わせて、最先端で安心・安全な医療を提供してまいりたいと存じますので、どうぞ本年も宜しくお願い致します。

医長 澤木 正孝



写真：岩田部長（写真中央）とスタッフ一同

薬剤部 スタッフの紹介

薬剤部は薬剤部長を始め33名の薬剤師を中心に患者さんが薬による治療を安心して受けることができるよう、さまざまな取り組みを行っています。最近では、従来の抗がん薬とは異なる作用を持つ「分子標的薬」と呼ばれる薬が注目され、当院でも多くの患者さんに投与されています。薬剤部では日々進歩している「がんの薬物療法」を適切に受けていただくため、治療を受ける患者さんに薬の効果や副作用、日常生活の注意点などについて分かりやすい説明に心掛けています。



写真：前列中央 梶田正樹（薬剤部長）とスタッフ一同

「名医が解説 これが"病のサイン"だ！」に出演

2019年9月26日、東海テレビの番組「スイッチ」に生出演しました。女性のがんの中で一番罹患率の高い、乳がんについての特集でした。

乳がんのリスクについて、早期発見のための症状・自己触診について、また乳がんの治療法についても解説しました。5mm程度の小さな乳がんでも自己触診で発見して来院される方もいることなどのエピソードもお話し、自己検診の重要性を視聴者にお伝えしました。

見ていただいた方が少しでも乳がんに対する意識を高め、検診の受診につながっていれば良いかと願っています。



乳腺科部 小谷はるる

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科(リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、リスク評価センター
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのアクセスのご案内

- ◎一般道路
本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- ◎高速道路
東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索